

# 編み物しながらドイツ語学習



## 集中力アップ、達成感も

編み棒を動かしながら集中力を高めて語学学習を。立命館大(京都市北区)のドイツ語クラスで、編み物を取り入れたユニークな授業が行われている。提案したのは講師の梅村マルティナさん(53)。編み棒を初めて握った学生もいるが、「授業の内容に集中できる」と好評だ。

### 立命館大

講師の梅村マルティナさん提案

今年4月から始まった編み物つきの授業は2年生12人が受講。週1度の授業の日、梅村さんが教室に入ると机の上には授業の道具と一緒に編みかけの作品が準備されている。編んでいるのは梅村さん考案の「腹巻帽子」。長さ約50センチの円筒形で、そのまま腹巻きやマフラーとして使えるだけでなく、中央部でねじると帽子にもなる。使用するドイツ製の毛糸は編み進めるうちに自然と模様が浮かび上がるといい、すでに20センチほど編んだ学生もいれば数センチのところまで苦心している学生も。2年生の藤田望人さん(19)は「難しいけれど、確かに集中できる。作品の進み具合も目



手糸2玉を使って作る「腹巻帽子」。マフラーにもなるほか、真ん中でねじるとリバーシブルの帽子にも

風景だが、映像で出てきた表現を復唱する時も、梅村さんが黒板で解説する時も、学生の手は常に編み棒を動かしている。梅村さんは「学生が以前より授業に集中するようになったのは確か。機会があれば成績にどの程度影響が出るのかも調べてみたい」と話している。(太田敦子)

梅村さん自身がドイツで学生生活を送っていたころ、集中力を高めるため編み物しながら授業を受けている学生をしばしば見かけたといい、「授業中に寝る学生や携帯を離さない日本の学生を、ドイツ語に集中させることができるとかもしれない」と思い立った。ドイツ語のDVDをもとに会話表現を学んだりするのはごく普通の授業。編み棒を手にドイツ語の授業を受ける学生(京都市北区・立命館大)